

解答

- 一 問一 A 厳然 B 不規則 C 推移 D 木立
E 危険 F 裏側 G 基準 H 混合物
問二 X ウ Y ア Z イ
問三 年ごとに暖
問四 A 体が濡れる B 昼と夜で温度がはげしく変わる
問五 A テントウムシの場合、白っぽい色の場所を探すこと。
B 白っぽい色の場所は、結果としてあまり寒くなく、乾いていて雨もかからず、昼夜の温度差も少なく、冬越しに適しているから。
問六 寒さに備えるための不凍液を作るのに、暖かさが必要である点。
問七 I イ II ウ
- 二 問一 何もできない子と自覚しているのに、逃げ場がなかったから。
問二 イ
問三 水玉の靴下は自分のお気に入り、身につけると絶望感を紛らわしてくれるものだったから。
問四 ランドセルになんでも入れられると知り、小学校が絶望的な場所であっても、ランドセルに気に入りのものを詰めて逃げれば良い、と思いついたから。
問五 ランドセルがまだ体に対して大きすぎる状態。
問六 自分の無力さに絶望していた「私」が、ランドセルにもものを詰めて逃げれば良いと考えることで、気持ちが軽くなり、狭い世界から脱出する「扉」を発見した、という意味。
- 三 問一 白い波が、海岸に強く打ち寄せる様子。
問二 海水浴シーズンが終わったから。
問三 夏が終わり、秋が訪れつつあるということ。
問四 A ゆらゆらと飛んでいる B 海が自分に別れを告げている
問五 季節の移ろいに、感傷的な気分を感じている。

解説

一

問五 A…何が「驚くほど単純」なのか、を考えましょう。文脈に沿って考えれば、「冬を越す虫たちが冬越しの場所を選ぶプログラム」が「驚くほど単純」なのであり、その代表として作者が具体的に挙げているのは「テントウムシの話」ですね。テントウムシが冬越しの場所を選ぶプログラム＝白っぽい色の場所を探すこと、ですので、これが答えとなります。B…Aの「テントウムシが白っぽい色の場所を探すこと」がなぜ「きわめて妥当(きわめて適切でふさわしい)」と言えるのか、その理由は、本文28～29行目「選択のキジュン～選ばれることになる。」に簡潔にまとめられています。

問六 “不凍液”とは、「あるものを氷点下においても凍らせないようにするために添加する液体」のことですが、ここでは「カイコの卵を凍らせないようにするために卵の中で自然にできる物質」を指しています。「冬の寒さの中でも卵を凍らせないこと」を目的とする“不凍液”なのに、それができるためには「秋の暖かさが必要」ということが「皮肉だ」と作者は感じたわけです。

二

問一 傍線1の直前と直後から、理由となる部分を抽出しましょう。①自分は本当になんにもできない子どもだ②そのことを自覚していた③逃げ場がなかった、の三点が必須の要素です。

問三 「いや増す」の「いや」は、「いよいよ・ますます」という意味の接頭語です。ここは「私」が大切なものたちをランドセルに入れている場面ですので、水玉の靴下は「私」のお気に入りの品だとわかります。とても気に入っているものなので、これがあれば私の「絶望」的な気分は紛れますが、ないとなると余計に「絶望」が増すのだ、と考えられますね。

問四 傍線4の直後「だってこの靴～逃げていこう。」とあるのが理由の部分です。「ランドセルに何でも入る」ということは、すなわち「小学校が絶望的な場所であったら、ランドセルに気に入りのものを全部詰めて逃げれば良い」ということです。「私」はいざという時の逃げ場所を見つけた気がして「だいじょうぶ」と思えたのですね。

問六 問一、問四を振り返りましょう。絶望を抱え、逃げ場もわからずにきゅうくつな毎日を送っていた「私」は、「いざとなったらランドセルに気に入りのものを詰めて逃げればいい」というアイデアに活路を見いだしましたね。そして実際に小学校に通ううちにいつしか「絶望」を忘れていきました。ランドセルは、私を新しい世界へ導く「扉」の役目を果たしたのです。